

Structure Kansai No.84 2005.1

J S C A 関西ホームページ <http://www.mmjp.or.jp/jscakansai/>

2005年 迎春号

阪神・淡路大震災から10年
を経た神戸の街

—写真提供 産経新聞社—



年頭のあいさつ



支部長

(株)大林組
八木 貞樹

あけましておめでとうございます。昨年は気象観測史上最多の台風の上陸により各地に多大な被害が生じ、中越地震では大きな被害が生じました。関西では小さな地震が幾つか起き、来る東南海・南海地震発生へのシナリオ通り進んでいる不気味さを感じる1年でした。本年は災害のない穏やかな1年であることを祈るばかりです。

さて「阪神・淡路大震災10年の記念行事」にはJSKA関西支部会員の多くの方々を始め、関西の大学の先生方や学生さん、サンケイ新聞社の方々など多数の熱い熱意と、ご努力により成功裏に終わることができました。感謝の念で一杯です。

思えば一昨年にこの企画を提案し、支部長としての最後の大行事との思いでいましたが、幾つかの予期せぬことから、もう1期支部長を務める事になり、関西支部の理事に昨年末立候補いたしました。今後も支部活動の活性化に取り組んで行きたいと思っています。人員削減などで、本業が多忙な方が多いとは思いますが、皆様の更なるご支援をお願いして、新年のご挨拶といたします。

年頭のあいさつ



副支部長

(株)イオリ建築設計事務所
谷尾 俊弘

新年明けましておめでとう御座居ます。「政冷經熱」对中国との関係を表すそうです。かつてなかった経済危機を脱した感があると言われた04年であった。「中国特需ブーム」が日本経済を引っ張った結果、鉄鋼・機械・輸送等の企業が軒並み経常利益が過去を上回った様子が報道されている。私共の環境は一向改善された様子は見受けられないが、今年は大いに期待したい。06年FIFAワールドカップアジア予選に始まりアテネオリンピック・アジアカップトーナメント等とテレビ観戦に明け暮れた年でもあった。いずれのゲームも日本にとって最高の結果をもたらしたと思う。この熱気がそのまま夏日の連続となり寝不足の夜を過ごす年でもあった。新潟・福井の豪雨による被害、又台風の当たり年で23号に至っては各地に大被害を齎した。地震は茨城県沖に始まり釧路沖から紀伊半島沖、中越地震では人的・物的に入り大被害をあたえ、自然の驚異を思い知らされた。今年は阪神大震災10年目にあたるが耐震改修促進法が震災化の「努力義務」でなく「義務」にすべきである。先送りせず自然災害を克服していきたいものだ。

皆様にとって2005年(乙酉)が良い年でありますよう。

年頭のあいさつ



副支部長

(株)東畠建築事務所
近藤 一雄

新年明けましておめでとうございます。阪神淡路大震災から早くも10年が経ちました。この節目にあわせ、記念事業として「建築構造展」、「シンポジウム」を開催し、我々構造設計者の職能を広く世間にアピール致しました。多数の会員のご協力ありがとうございました。おかげさまで徐々にではありますが、今までにない反応があり、開催の意義があったと感じております。この灯を消すことなく、大きく育てていきたいと考えます。

2004年は漢字「災」で締めくくられる1年でした。記録的な台風の上陸に伴う風水害災害、新潟中越地震災害など、まだまだ自然災害に対する我々の技術力のなさを思い知らされ、より一層の努力が求められています。

一方、遅々として進まない耐震診断・補強工事など、人的災害の予防に英知の結集が求められています。今年は、技術力の向上のみならず、社会システムの変革に向けて積極的に働きかけていく、新たなJSKA関西の始まりとしたいと考えます。会員皆様のご協力をお願い致します。



震災10年事業 構造展

構造展WG
前野 敏元

■はじめに

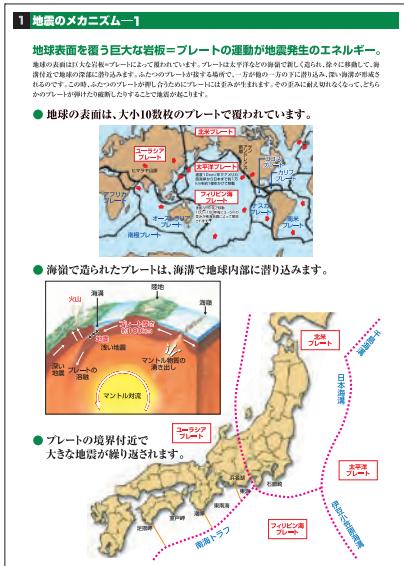
1995年1月17日早朝に発生した阪神大震災は、被災された方々はいままでもなく、建物を設計する我々構造技術者にとっても忘れられない出来事、尊い教訓です。今年2005年は阪神大震災から10年に当たる年です。

JSCAでは、これを契機にこの10年を振り返り、「安全・安心な成熟社会の創造に向けて」および「震災前後で構造技術がどう変わったか」を考えました。具体的には、将来予想される東南海・南海地震等の巨大地震や都市部での直下型地震にどのように備えるかを、被災地神戸をはじめ近畿地区の多くの市民に啓蒙し、併せて私たち構造技術者の存在をPRするために、シンポジウムと構造展が企画されました。

ここでは、阪神・淡路大震災10年事業の2つの企画のなかの、構造技術の進歩について紹介する「構造展」について報告いたします。

■企画の進捗

2003年9月に震災10年事業企画委員会（以下企画委員会）から、JSCA主催の建築構造技術の展示会を企画運営すべく「構造展WG」が召集されました。その数10数名。JSCAの活動に常日頃から協力している人や、無縁に近い人まで様々な経験を持つ人たちです。年齢も



地震のメカニズム

30台から60台まで幅広い範囲に分布しています。共通点は建築の構造技術に深く関わっており、阪神大震災に強く影響を受けた人たちです。

企画委員会から示されたのは、「一般市民を対象とした構造関連の展示会を、阪神大震災から10年になる2005年1月頃に近畿一円で開催せよ」とのことでした。

何をどのようにすればよいのかわからないままに、とりあえずWGメンバーだけの第1回目の会合を2003年10月22日に開催しました。展示会まで1年以上の時間があるものの、本業に忙しい立場にある人ばかりです。構造展全体の構成と準備の進め方や予算、会場、日程について議論しました。JSCAの展示会の先例として「九州支部の構造展」があることを教えられ、その企画に参画されていた構造計画研究所の古川さんにもWGに参加していただきました。

WGメンバーの責任感は強いものの今まで経験がないという不安もあってか、企画会議の初期の段階ではいろんな意見がでました。「一般市民をターゲットにして構造設計を認知させたい。」「あなたの家は大丈夫？という切り口で構造をアピールしてはどうか。」「過去を振り返るだけではなく、明るく将来を語りたい。」など活発に意見が交わされました。

いろんな意見が出たものの、地震をテーマにした展示パネルを中心にして構成することは初期の段階で決まりました。展示を意味づけするイントロ、地震発生のメカニズム、当時の被害状況と復興、建物被害のメカニズム、耐震診断と改修、新しい構造技術の分野に分けて構成することが決まりました。

しかしながら、メンバーが自らパネルを作成したり展示方法を企画段取りすることは不可能です。そこで展示を企画運営する専門業者を選定することにしました。

WGメンバーの会社や事務所で推薦す

る業者を上げてもらい、展示内容がぼんやりとしか決まっていない段階で入札を実施しました。提示されたコストだけでなく、我々多忙な構造技術者の状況や思いを理解してくれる専門業者を選定しました。「アクロス」という企業です。

ほぼ月に1回のペースでWGの打合せを行いました。毎回いろんな意見が出てパネルの内容もだんだん充実してきました。終盤にはアクロスも参加して議論しました。会場の下見、展示方法の検討など、専門業者であるので当然ではあります、大変スムーズに企画が進行し、我々にも大変協力してくれました。

構造展の実施には当然のことながら費用がかかります。震災10年事業主催のJSCA本部、支部および共催の産経新聞から資金は出してもらいますが、「震災10年 神戸からの発信」事業に応募して神戸市、兵庫県から補助金を受けることになりました。この補助金獲得にあたっては、JSCA兵庫会のメンバーである神戸の久森さんらの多大の協力を得ました。

■展示内容の紹介

構造展に足を運んでいただいた方も多いと思いますが、ここで展示内容を代表的なパネルとともに簡単に紹介します。

イントロ

構造展示の主旨説明

JSCAの説明

地震発生のメカニズム

地球表面のプレート活動

地震の活動期と静穏期

南海地震と直下型地震

近畿地方の断層

各府県の想定震度分布

被害状況と復興

当時の建物被害写真と現在の状況

建物被害メカニズム

ピロティ部の崩壊、中間層の崩壊

せん断破壊、柱の変形能力強度の不足



被災状況と復興

木造建物の倒壊
地盤の液状化、杭頭の破壊
耐震改修
ビルの耐震改修
木造住宅の耐震改修
新しい構造技術
耐震構造
制震構造
免震構造
耐震診断と耐震改修
診断の手順
行政の補助

■構造技術者が語る

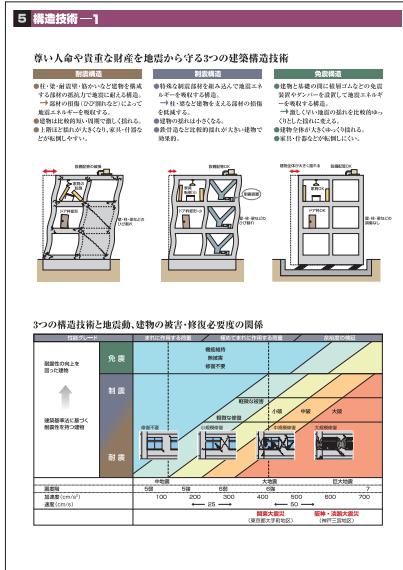
今回の構造展の主テーマは、近畿地区の多くの市民に来るべき地震に対してどのように備えるかを啓蒙することでした。しかしながら、私たち構造技術者の存在をPRすることも大切なテーマです。



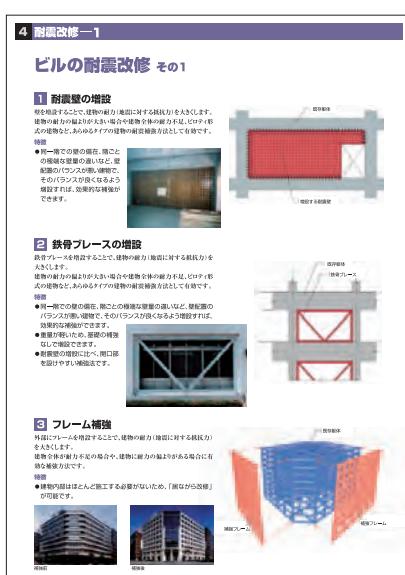
構造展ではパネル展示のほかに、ビデオ映像も放映しました。1995年当時のテレビ報道映像のあとに、JSCL会員がそれぞれの阪神大震災に対する思いを語る映像です。

発案は鹿島建設の池崎さんによるものです。池崎さんはご自身の所有する当時のニュース映像と会社の同僚の方が思いを語っているデモンストレーションビデオを自分で編集して、WGの会合で皆に見せて映像企画の必要性を訴えました。我々メンバーは全員賛成し、今回の構造展の目玉とすることにしました。

震災時の映像は、著作権の問題もあるため関西テレビの協力を得て提供していただきました。構造技術者の語りはJSCLを代表して、建設会社、設計事務所、行政関連の組織から41名の構造技術者の方に参加いただき撮影しました。



構造技術



耐震改修

すべての人の語りを聞くには40分程度の時間がかかりますが、有意義な企画です。

最後の部分でのナレーションを引用します。身の引き締まる思いが伝わります。

「あの日の震災によって体も心も踏みつけにされた私たちは、あらためて自然の脅威を思い知らされました。しかし私たちはその自然の懐で生きていかねばなりません。私たち建築構造技術者は、この尊い命とかけがえのない財産を自然の恐るべき力から守っていかなければならぬことをさらに強く自覚し、努力していく



京都会場入口



ビデオ上映



展示会場



パネル展示

ます。さあ皆さん、もっと建築構造に目を向けましょう。私たちは皆さんの安全な日々の暮らしのために、たゆまぬ技術の開発・挑戦を続け、夢と希望にあふれる未来の創造に貢献しています。」

■小学校児童の絵画展示

WGの会合を重ね企画をつめていく段階で、「構造関連の展示だけでは会場全体に重い雰囲気が漂うのではないか。もっと夢のある展示が必要ではないか」との意見がありました。

そこで考えたのが、絵画の展示です。建築関係の大学生の作品を展示する意見もありましたが、小学生の夢のある作品を展示しようということになりました。テーマは「50年後の私たちの街」としました。

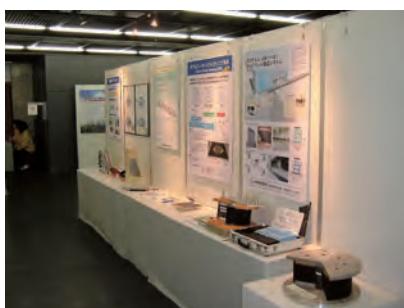
できるだけ多くの児童から作品の提供を得ようとしていましたが、展示本番までの時間が迫っていたため、限られた学校に依頼することになりました。JSCAからの依頼に快く応じていただいたのは主に以下の4つの学校です。

近江兄弟小学校
城南短大付属小学校
学校法人帝塚山学園
京都教育大学教育学部付属京都小学校
これらの小学校児童の作品が展示されているため、会場全体にはのぼのとした雰囲気が漂い、大変良かったと感じました。

■賛助会員の展示協力

JSCA賛助会員のいろいろな企業や団体からも展示の協力を得ました。一般市民にわかりやすい展示との求めに応じて、パネル展示だけではなく、実物大や縮小の模型を展示してもらいました。訪れた人も単に見るだけでなく、いろいろな角度から眺め、実際に触れてみることで、構造技術の理解がすすんだと思われます。

以下に協力いただいた12の賛助会員を紹介いたします。



賛助会員の展示

NTN（株）、オイレス工業（株）、カネソウ（株）、カヤバ工業（株）、（社）钢管杭協会、高周波熱鍊（株）、三和テック（株）、昭和電線電纜（株）、（株）東京ソイルリサーチ、ニッタ（株）、（社）日本鉄鋼連盟、ハーフP C aボイドスラブ協議会

■実施日時と会場

構造展は京都、奈良、神戸、大阪の順に以下の日程、会場で開催いたしました。

京都	2004年12月10,11日
	学芸出版社
奈良	2004年12月18,19日
	奈良マーチャントシードセンター
神戸	2005年1月11,12日
	兵庫県民会館
大阪	2005年1月16,17日
	中之島公会堂

■アンケート

会場では来場者数を間違いないく確認することを主な目的として簡単なアンケートを実施しました。原稿の締切りの都合により京都会場で回収された44枚のアンケートの結果しかここでは示せませんが以下のようになっています。（構造展全体を通しての分析は別の機会に行います。）

来場者のプロフィール（44名のうち）

性別 ①男性	37	②女性	7
年齢 ①18才未満	1		
②18~40才	11		
③41~60才	27		
④61才以上	5		
職業 ①会社員	25	②公務員	0
③教職員	2	④学生	5
⑤自営	8	⑥その他	3

職業、学校と建築との関連

有無 ①あり	21	②なし	10
③JSCA会員	13		

展示の感想

理解度 ①十分	34
②少し	8



児童絵画

③難解	1
④わからない	0
興味をもった分野（複数回答）	
①ビデオ映像	24
②地震発生のメカニズム	9
③建物被害の状況	18
④壊れた原因	6
⑤耐震診断、改修	8
⑥新しい技術	16
⑦児童の絵画	9
構造展をどのように知ったか	
①新聞	2
②チラシ	4
③ポスター	2
④知人	12
⑤その他	20

■構造展WGメンバーの紹介

今回の震災10年事業のうち構造展に当初から携わってきた17人のメンバーを以下に紹介します。

阿波野昌幸	（株）日建設計
池崎 正浩	（鹿島建設株）
越野 孝之	（越野設計事務所）
佐藤 隆志	（清水建設株）
嶋崎 敦志	（株）大林組
坪根 正幸	（株）安井建築設計事務所
渚 豊一	（株）和田建築技術研究所
西村 清志	（株）平田建築構造研究所
久森 敏平	（前田建設工業株）
平松 豊	（株）三菱地所設計
福森 享	（株）東畑建築事務所
福良 徹	（建築ディレクト社）
古川 欽也	（株）構造計画研究所
前野 敏元	（株）竹中工務店
増田 廣見	（株）エース構造設計事務所
山田 晶一	（株）エス・ティ・ティ ファシリティーズ
山田 正人	（株）エーアンドディー設計企画

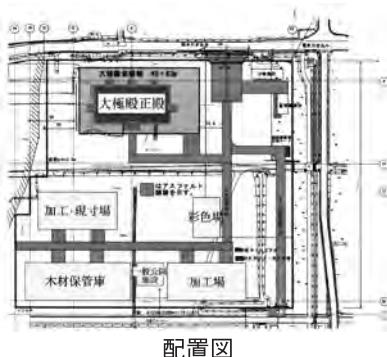
上記メンバーの他にも構造展実施にあたっては、京都、滋賀、奈良、神戸の各サテライトに所属されるJSCAの方々に絶大な協力をいただきました。ありがとうございました。



受付の学生

「平城宮跡第一次大極殿正殿復原工事」

現場見学会に参加して



配置図

J S C A 関西では、11月25日（木）平城宮跡第一次大極殿正殿復原工事見学会が企画された。この建物は、平城遷都1300年となる2010年の竣工を目標に工事が行われている。

施工会社は、竹中・浅沼・森本特定建設工事共同企業体である。

この報告書は、担当者の説明及び資料を元に作成した。

① 大極殿の建物は

平城京の北に位置し、政治や儀式を司る場として用いられ、天皇の即位式や元旦の朝賀、外国使節の謁見等に使用された最上級の建造物である。

今回復原工事が行われている第一次大極殿は、朱雀門の北方に位置し、710年の平城京遷都から約30年の間、儀礼空間として使用された建物である。

② 工事概要

1) 平城宮跡第一次大極殿正殿復原工事

建築物の構造形成

在来の伝統的工法による純木造建築
建築物の主要用途は屋外博物展示物
奈良市佐紀町特別史跡平城宮跡地内
敷地面積 87,839m²

特別史跡・歴史的風土特別保存地区・

第1種風致地区・市街化調整区域

発注者

文部科学省大臣官房文教施設企画部

設計・監理

文部科学省大臣官房文教施設企画部参考官付

財団法人 文化財建造物保存技術協会

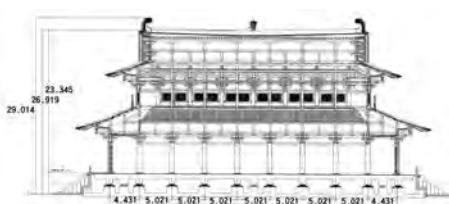
2) 建物概要

建築面積 1,386.984m²

延べ面積 858.116m²

軒の高さ 20.670 m

建築物の高さ 26.919 m



断面図 1



断面図 2

木材について

今回使用されている木材は主に奈良県から集積され地域は黒滝村・川上村・西吉野村他である。主に樹齢250年から300年程度の桧材が用いられている。

復原工事とは

復原工事は建物の歴史的な背景を取りまとめ、あくまでも忠実に復原を考えている。それだけでは、現行建築基準法上は構造耐力的に問題があることから、補強工事が必要となっている。

その一つに、基礎免震工法の採用・床面剛床仮定の成立のため、構造用合板貼り（厚さ18ミリ・釘2-C N75@90打ち）・壁プレースの設置となっている。設計図面を見るとプレース材には大断面集成材E 1 2 0 - F 3 7 5米松が使われている。プレース材端ボルトに、「炭素織維二重巻き」されており、どのような目的・効果を期待して施工するのかは、私には意味不明であった。

構造用合板・大断面集成材を採用したのは、後世に復原部分と、補強部分とを区別できるように考えられている。

復原部材に、後補強のボルト穴を開けるのは、施工的にも複雑で、また宮大工としても大変悲しいことだろう。

感想

木材は、地元桜井市にある「(株)金幸(かねこう)」が担当した。予算が決定してから木材を集めることは時間的に無理があり当然、事前に調達されたことと想像する。また、大工工事は「(株)瀧川寺社建築」が担当している。このように奈良県内の材料供給業者と経験豊富な宮大工集団が地域で生き残っていることで今回の工事が可能になった。無事竣工を迎えることを希望する。

筆者紹介 中本 明 (1955年生)



有限会社伸 (のび)

構造事務所代表取締役
奈良県香芝市にて営業

奈良県吉野町出身、
吉野工業高等学校、

近畿大学理工学部建築学科卒

1980年一級建築士・1998年構造士取得

第17回 J S C A 関西支部海外研修会報告(10/10~17ミラノ・マルタ)

「ミラノあれこれ」

大内山建築設計室 大内山 洋子

12月7日・ミラノ守護聖人の日に、スカラ座が、2年半・83億円の大改修を終え、こけら落とし公演が華々しく行われた、と日本の新聞が伝えていました。そう、私達が研修旅行でミラノを訪れていた時、スカラ座はまだ工事中でした。クレーンと足場の向こうに、マリオ・ボッタ設計による円筒形の増築部が、割と控えめに建っていました。舞台と管理部が増改築されたとか。いずれ、その詳細が雑誌に紹介されるのでしょう。

ミラノもう一つの見所、ドゥオモのファサードも足場&ネットで覆われていました。残念！中世ゴシックの大聖堂ですが、ツンツン空を突くような多数の尖塔（その全てに彫像が立っています）、大理石で出来ているのにレースのように繊細な装飾、無数の彫像（その数なんと内外合わせて約3400体とか）、一番高い尖塔の上には聖母マリア様。ドゥオモはやはりミラノの中心です。



と、ここまでミラノ報告を進めてきましたが、私の立場をちょっと説明しておこうと思います。実は、私はJSCA会員ではありません。夫のお供で、研修旅行参加は今回で5回目になりました。（感謝！）私自身は住宅の設計監理を主な仕事をしています。JSCA構造系の方々とは、視点が少々違うかもしれません、そこは、お許しください。

ということで、また、ミラノの話に戻ります。ミラノはイタリア第2の都市。人口は、大気汚染や家賃高騰もあり、今は140万人位に減っているとか。それでも、NY、パリ、東京と並び称されるファッション・デザインの街ですよね。これからは、一般的な観光名所はバスして、ちょっと違うミラノ建物探訪をご報告します。（有名な建物はガイドブック参照）

「ピレリビル」設計：ジオ・ポンティ
ミラノ中央駅近くに建つ高層ビル。1958年竣工といいますから、もう、50年近く前の建物なのですが、デザインが古くないです。ポンティ67歳の設計。中央駅がムッソリーニの時代のデザインで、石の塊のような量感に対し、スレンダーで若々しいデザインです。

「トーレベラスカ」

設計：リチャード・ロジャースの祖父他ちゃんと見学できたわけではありませんが、その特異なシルエットが目を引きます。ピレリビルが未来を見つめたデザインなら、このビルは過去をモチーフにしたデザインです。ピレリビルとほぼ同時に竣工しているのですが、同時代のビルには見えないところがおもしろい。



「サンカルロ病院礼拝堂」

設計：ジオ・ポンティ

ピレリビルと同じく、六角形をモチーフにしたデザイン。平面だけでなく、窓にも六角形が多用されていましたが、日本人の私には、六角形が亀甲模様と重なり、どう評価してよいのやら、まだ、腑に落ちない建物です。

「サンシーロサッカースタジアム」

ミラノ郊外にある、85000人収容（すごい！）の大競技場。甲子園球場の声援がすごいと思っていたのに、その2倍の観客が一斉にワアワア熱狂する想像しただけで、鳥肌が立ちそうでした。ACミランとインテルのホームスタジアム。ワールドカップ開催のための増築で今の形になったとか。増築した観客席を支える柱と赤い梁が目を引きます。プロポーションを考えると、明らかに太すぎる柱。その太さの秘密は、柱を取り巻く斜路のせいなのですが、それがまた、深い陰影を作り出していました。笑ってしまうのは、その斜路を使って上り下りするには、40分もかかるので（目が回りそう）、今では誰も使わないそうです。デザイン優先で導き出された形状なのでしょうか。



「ガララテーゼの集合住宅」

設計：アルド・ロッシ

サンシーロ近くには、集合住宅がたくさん建っているのですが、その中でも、異色の存在でした。薄い壁柱が並んだ不思議なピロティー空間、装飾を排除したシンプルな外観。他の集合住宅とはまったく違うオーラを放っていました。



ミラノ3日目は、終日自由行動の日でした。JSCA研修では初めての経験です。マッジョーレ湖＆コモ湖、フィレンツエ、ヴェネツィア等、各自好きな所を選んでの日帰り小旅行。私達は6名で、ミラノから電車で約一時間のベルガモへ行ってきました。小高い丘の上にある、中世の都市がそのまま残っているような街、芸術の街でした。電車・バス・フニクラを乗り継ぎ、自由な旅の気分を味わうことができ、なかなか楽しい経験でした。

その他、ミラノではホテルとイタリア家具店めぐりをしてきました。デザインのお勉強（？）。その中で、5つ星最高級ホテルの印象をすこし。「サヴォイアホテル」クラシックな内装。最高級といふけれど、個人的印象では少し品格が落ちているのかな？「グランドホテル」アンティークな雰囲気。「ホテル・ブルガリ」流行のデザイナーズホテル。とにかく、おしゃれ。「フォーシーズンズ」何の変哲もない古い建物の外観とは裏腹に、中は別世界。古い修道院を改装した中庭まわりがすばらしい。

以上で、ミラノ報告を終わりますが、どのホテルでもいいから、一度は泊まってみたい！！・・・です。おしまい。

「マルタ」

鹿島建設株式会社
辻 幸二

地中海に浮かぶ小さな島。マルタ島とゴゾ島、それに三つの小さな島を合わせて、淡路島の2/3程の面積の島に40万人弱が住んでいる。1974年イギリスから独立。一般には、マルタ騎士団、マルタストーンでよく知られているが、地中海の何処にあるか探し出すのも容易でないほど、小さな島国である。民族は中近東、北アフリカとヨーロッパの混血によるマルタ人、言語も混合言語のマルタ語と英語が公用語である。

晩秋の気候のミラノから晩夏・初秋の気候のマルタに現地時間17：30に到着。手荷物受渡し所でトラブル発生。我々の手荷物が5～6人分を除いて出てこない。今の便がミラノからの最終便。イタリアでは日常茶飯事の荷物の積み忘れか。最悪明日まで着替え無しかと諦めかけたとき、飛行機の中に降ろし忘れの荷物があることが判明。ほっと胸をなでおろした一行21名。機嫌を取り直して、迎えのバスでホテルを目指す。道路には車があふれている。ガイドさんの説明では、マルタでは中古車が多く、日本車は左側通行仕様で、故障が少ないので人気が高いようである。途中、エンスト2回、やっとホテル到着と思ったら、エントランス前の坂を上がれない。アクセルを一杯に噴かしてやっと上がれたが、車内に焦げ臭い匂いが充満している。翌日、運転手曰く、今日は別のバスなのでノープロブレム。結果は、ゴゾ島からの帰りの便は、別のツアーのバスに同乗（これがほんとの同情）させてもらう羽目になった。何がノープロブレムだ。同じバスで、しかもエンジンがいかれたバスではないか。

飛行機、バスと乗り物はトラブル続きだったが、天候には恵まれた。快晴の地中海の青い空と海、そして世界遺産の数々を紹介する。

○マルタ観察の一日目は、フェリーでゴゾ島へ渡る。巨人女性サンヌーナが建造したと言われているジュガンティーナ神殿が最初の観察地。エジプトの階段ピラミッドよりも古い建造物で、紀元前3600年前に建造。1970年に炭素法で建造年代が証明され、1980年に世界遺産に指定されたそうである。考古学上は価値の高い神殿らしいが、建築としてはもう一つの印象を持ったのは僕だけかな。



○聖ヨハネ騎士団が17世紀にトルコ軍の襲来に備えて作った高台の街「チッタデル」。その中心にロレンツォ・ガッファが設計したバロック様式の大聖堂が聳える。当初の計画では、ドームが乗るはずだったが、資金不足で取りやめになった。イタリア人の画家アントニオ・マヌエルが遠近法を駆使した大作で、あたかもそこにドームがあるかのような天井画を描いている。見上げる方向によっては、ドームがあるように見えるが、全方向からの視線に耐えられないのが残念。



○マルタ観察の二日目は、首都バレッタ。1565年のトルコ軍の「大包囲戦」に勝利した後、当時の騎士団長バレッタが築いた城塞都市バレッタ。聖ヨハネ騎士団は1113年に聖地エルサレムに創立され、その後ヨーロッパ各地を転々とした後、1530年マルタに本拠が置かれ、以後マルタ騎士団と呼ばれるようになった。騎士団員はヨーロッパ富裕階級の次男以下の子弟で構成され、親からの援助、相続遺産を資金源として、数多くの建築が作られた。平面の大きさが96m×81m、バロック様式の巨大な建物がジェラーモ・カサールの意匠により1547年に完成した騎士団長の宮殿で、現在は大統領府と議会となっている。建物内部の廊下の両側には、甲冑と歴代騎士団長の肖像画が並び往時の雰囲気を醸している。甲冑の大きさは平均的な日本人よりも小さく感じた。マルタ騎士団は意外と小柄なのかもしれない。

○マルタは風光明媚なところ。ゴゾ島のアズール・ウインドーの自然のアーチとアーチの間から覗く青い海。とりわけ、日差しの中と島陰の海の色がブルーとグリーンにはっきりと分かれて、しかも鮮やかなには感動した。バレッタのアッパー・バラッカ・ガーデンからの眺望はすばらしいの一言。



○この他にも、マルタ島の古都イムディーナの狭く曲がった路地、ガッファ建造の大聖堂、マルタのビーナス等楽しい思い出が一杯の旅であった。

●事務局だより

1.支部役員会

11月12日（金）18:00～20:00

2.事業委員会

11月1日（月）18:00～20:00

3.技術委員会

10月5日（火）18:00～20:00

11月29日（月）18:00～20:00

・技術委員会および分科会関連について

・震災10年事業企画について

4.広報委員会

10月13日（水）17:00～18:30

1月12日（水）17:00～18:30

5.震災10年事業企画委員会

10月27日（水）19:00～21:00

11月11日（木）19:00～21:00

・震災10年事業について

・構造展実行WG

6.危機管理委員会

10月27日（水）18:00～20:00

・本部危機管理マニュアルについて

・危機管理体制の構築にあたって

・関西支部危機管理マニュアルについて

7.講習会

「木造軸組の新しい耐震設計がマスターできる実務講習会」

10月6日（水）、11月10日（水）、

12月1日（水）15:00～18:00

8.震災10年企画事業

○シンポジウム

「阪神・淡路大震災から10年」

場所：大阪市中央公会堂大ホール

◇1月16日（日）14:00～17:30

「安全・安心な成熟社会の創造」

・基調講演 柳田邦男氏

「被災者の視点とは何か」

・パネルディスカッション

「安全・安心な社会を創るために」

◇1月17日（月）14:00～17:30

「震災後10年、建築構造技術はどう変わったか」

・パネルディスカッション

○建築構造展

「震災を越えて

一あの時、今、そして明日へ」

・京都12月10、11日

学芸出版社

・奈良12月18、19日、

奈良マーチャントシードセンター

・神戸1月11、12日、

兵庫県民会館

・大阪1月16、17日、

大阪市中央公会堂

9.現場見学会

「平城宮跡第一次大極殿正殿復原工事」

10.技術委員会各分科会

・地盤系分科会

10月28日（木）

・R C 分科会

10月1日（金）

・鉄骨系分科会

9月27日（月）12月8日（水）

・情報システム分科会

10月1日（金）1月15日（月）

・工業化・P C 分科会

10月26日（火）

・構造計画分科会

9月30日（水）

・木構造分科会

9月1日（水）10月6日（水）

・法制分科会

8月5日（木）

9月8日（水）、9月30日（水）

11.海外視察研修会

「ミラノ・マルタ建築視察」

10月10日（日）～10月17日（日）

12.教育活動

・若手構造技術者（会員外）の育成講座（2月開催予定）

第42回J S C A会成績発表

11月20日快晴 於 播磨CC *印 初参加

順位	氏名	OUT	IN	GROSS	HDC	NET
優勝	近藤 一雄	49	51	100	36	64
2	田中 利幸	43	42	85	18	67
3	土井 祥栄	55	51	106	32	74
4	半田 健二	56	49	105	30	75
5	渡辺 勘	45	49	94	18	76
6	奥西 太子	49	42	91	13	78
7	谷田 賢二	49	54	103	25	78
8	安田 光世	47	42	89	10	79
9	上原 秀	46	51	97	18	79
10	岡本 一行	47	46	93	12	81
11	杉村 光雄	53	48	101	20	81
12	馬瀬 芳知	44	45	89	7	82
13	新保 勝浩	56	50	106	24	82
14	仲 晃一	47	39	86	3	83
15	*田中 昌郁	49	56	105	20	85
16	前野 浩平	54	56	110	25	85
17	脇山 広三	60	56	116	31	85
18	山内 良作	47	54	101	15	86
19	河崎 四郎	49	46	95	8	87
20	長谷川 薫	58	46	104	17	87
21	宮下 和章	62	56	118	30	88
22	松田 正英	53	48	101	11	90
23	香川 正博	56	53	109	18	91
24	塩田 丈二	62	65	127	36	91
25	大内山 正英	57	55	112	20	92
26	西村 清志	63	51	114	20	94
B B	山崎 勇	49	57	106	11	95
28	*酒井 広孝	74	75	149	36	113

平均ストローク104.0

ニヤビン：馬瀬、塩田、土井、脇山

ドラコン シニヤ：仲、長谷川 ジュニヤ：上原、山内

次回 HDC：近藤 24 田中 13 土井 30 幹事 新保 記

第19回 囲碁同好会

11月13日（土）：囲碁サロン「刻」

	優勝	土居 健三
Aクラス	準優勝	野中泰二郎
	3位	八木 大児
	敗者優勝	荒川宗夫
Bクラス	優勝	小松原操
	準優勝	辻本 勝彦

●編集後記

2005年1月号は震災10年の節目に発刊となります。ご覧いただいている皆様もこの10年を振り返って、思いにふけっておられるのではないでどうか？私も六甲山に何度か登り、神戸の町を眺めてみましたが、見事に復興されてきていると感じました。

また、京都の構造展に足を運んでみましたが、そこでは構造展に関わられた方々の熱い気持ちを感じることが出来、展示の方もわかりやすく大変ためになりました。2004年は災害の一年といわれ、地震・台風と日本列島を揺るがせました。構造展では自然の大きさを謙虚に受け止めながらも、前向きに取り組む設計者の方々の気持ちを感じることができました。

白沢 吉衛

発行 (社)日本建築構造技術者協会 関西支部事務局

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-8-31(安田ビル3F)

Tel 06-6446-6223 Fax 06-6446-6224

Mail jscaweb@kansai.email.ne.jp